神戸新聞
KOBE SHIMBUN
(神戸)
'17.5.23

534

展望

▼上▲

兵庫県高校総合体育大会(神戸新聞社後援)は6月3日、神戸市長田区の

中村(市尼崎)に注目

神戸常盤アリーナで総合開会式が開かれる。開会式に先立ち、5月26日から各競技の開催が本格化し、6月11日まで各地で集中的に開催される。競技別に大会を展望する。

陸上

(26~28日・ユニバー記念競技場)

男子のハンマー投げは阪神地区予選で66㍍00を出した中村美史(市尼崎)に注目。60㍍超えた吉田明大、藤本智大(ともに自由ケ丘)と全国レベルの争いを繰り広げる。1500㍍、5000㍍は井上大輝(須磨学園)が強い。三段跳びは川上ヒデル(鳴尾)、走り高跳びは藤井稜真(兵庫)が頂点を目指す。

女子はやり投げで兵庫高校新記録の54㍍34を出した武本紗栄(市尼崎)が頭一つ抜ける。円盤投げと砲丸投げはアヒンバレ・ティナ(市尼崎)と永井楓花(姫路商)が競り合う。100㍍、200㍍は宮田乙葉ら夙川勢が優勝争いの中心。走り幅跳びで全国総体女王の高良彩花(園田)は100㍍障害との2冠を目指す。

学校対抗得点は男子の滝川第二、女子の姫路商の優勝に期待がかかる。

ハンドボール

(6月2~4、9~11日・神戸市立中央体育館ほか)

神戸星城と夙川が2強

女子

男子は県新人大会で優勝した神戸国際大付に安定感があり、10連覇を狙う。春の全国選抜大会に初出場して3回戦まで進んだ川西緑台、同じく初出場組の神戸科技が後に続きそうだ。女子は2連覇を狙う夙川と県新人大会覇者の神戸星城が2強を形成。ベスト4常連校の明石、武庫川女付がどこまで食らいつけるか。

バドミントン

(27、28日、6月2~4、9日・神戸市立中央体育館ほか)

園田がV7射程圏 女子団体

男子団体は18連覇を狙う村野工の力が群を抜く。同校エースで、19歳以下日本代表の友金莉玖斗はシングルスのほか、河野匠真と組むダブルスでも有力だ。育英勢がどこまで食い込めるか。

女子団体は園田が7連覇を含む3冠に照準を合わせる。社勢も意地を見せたい。

女子団体は園田が7連覇を射程圏にとらえる。個人でも園田勢が上位を占めそうで、シングルス優勝候補の斉藤さくらは、古川恵と組むダブルスも有力だ。育英勢が甲南が優勢。滝川、神戸星城が追う。同個人は経験豊富な岡崎恭輔(甲南)、1年の芦谷健太郎、東村徳朗も安定している。

アーチェリー

(9、11日・しあわせの村アーチェリー場)

男子団体は甲南が優勢

男子団体は昨年の全国総体5位で選手層の厚い

女子団体は昨年の全国総体準優勝メンバーが残る。

体操

(28日・西宮市立中央体育館)

市尼崎や報徳 姫路商が争う

男子団体

男子団体は市尼崎、報徳、姫路商が覇権を争う。同個人は全国選抜大会に出場した川上隼輝(市尼崎)を中心に、岩谷優一郎(報徳)、野原瑠晟(市尼崎)、垣内風希(飾磨)らによる混戦か。女子団体は県新人大会覇者の夙川、市尼崎、武庫川女付が競る。同個人は全国選抜大会を経験した広野真愛と中川波音の夙川勢、魚井光と川崎美穂の市尼崎勢に加え、1年の高橋蘭(市尼崎)、一宮さやか(武庫川女付)が上位をうかがう。

◆…新体操…◆

(26、27日・西宮市立中央体育館)

女子団体は日ノ本と須磨ノ浦が頂点を争う。同個人は全国選抜大会総合5位の大西亜実(日ノ本)が筆頭候補。

男子団体は昨年の全国総体に初出場した尼崎西が有力だ。同個人は岩渕翔之介(尼崎西)、丸毛悠哉(西宮今津)、藤綱峻也(姫路東)、岩渕緒久斗(尼崎西)を軸に混戦。

バレー

(6月2~4、7、8日、グリーンアリーナ神戸ほか)

市尼崎が盤石 9連覇に照準

男子

男子は9連覇を狙う尼崎が今年も強い。人大会準優勝の社、姫路工、須磨友などが追う。女子は新人大会を制した氷中心。神戸野田、須浦、日ノ本、姫路南川などが上位争いを広げそうだ。

ダン

(9日、明石市民会館)

神戸野田がV4に挑む

4連覇を見据える野田、昨年2位の高園など私学勢に力がる。長田、小野、須風など公立勢も上位かがう。

県高校総体(神戸新聞社後援)